

相手意識のもち方

<大人と子どもの違い>

大人と子どもの違いって何でしょうか。体つき、年齢、給料をもらって働いていること、一人で生活すること、選挙ができること、お酒が飲めること…など、様々な規準があるかと思えます。修学旅行の夜の反省会で話したところ、児童の中から「物の考え方」との意見が出ました。さすが6年生、いい所に気づいています。もう少し具体的にしてみましょう。「TPO」という言葉、耳にしたことはあるでしょうか。和製英語ですが、「Time Place Occasion」、「時」「場所」「場合」に応じて適切な言動ができることと考えられます。更に具体的にすると、

- ・家族のことを話題にする時「父は…」 「母は…」を使う
- ・友だちに話す時と授業中の言葉とを使い分ける
- ・みんなが使う場所のマナーを知っていて行動に移せる
- ・電車やバス内での声量や行動の良し悪しが分かる など

状況に応じて対応できることが大人と子どもの境目になるであろうと私は考えています。不思議なことですが、実際に20歳を過ぎてもこれらができない人がいますし、小学生・中学生であってもできる人がいることが分かります。本校の6年生の中にもできる人がたくさんいます。「公」と「私」の区別ということにもなるのでしょうか。「公」を知らないまま育つと、その年齢の「らしさ」がない子どもが育ってってしまうように思います。



<6年生の印象的な姿>

10月3日・4日の2日間、東京へ修学旅行に行っていました。2日間を通して一緒に行動しましたが、6年生は学習、見学、いずれも熱心で、宿舎での共同生活も安心して見ていられました。その中で話題にしたいのは「相手意識」です。この中には「思いやり」「助け合い」「支え合い」「尊敬」「感謝」「挨拶」「協力」「協調性」「公共のマナー」など様々なことが含まれてきます。

修学旅行のめあては「みんながスマイル修学旅行！」（一人一人が、今、何をすべきか考えて行動し、みんなが気持ちよく過ごせる、最高の思い出の2日間にしてしよう）でした。私たち職員は、子ども自身で考え、行動することを大切にし、子どもたちを前面に出して任せようと考え、「連れて行ってもらう旅行」から、「自分たちで進める旅行」となるようにしてきました。バスの中でガイドさんが説明をする時にざわざわと話し声が聞こえることもありましたが、「ねえ、聞いて！」とその場で注意したり、一日の反省で、「話をしている時はちゃんと聞くようにしたい」「係の仕事を自分で気づいて進めたい」と話したりして、反省を翌日に生かそうとする姿がありました。そしてそれらは実際に翌日に改善されていきました。また昼食時にはグループのもんじゃ焼きを進んで作る、エスカレーターでは乗る時に右側をあけて乗る、夕食時に友だちの誕生日を祝う、お礼の挨拶では必ず感想を一言加える、バスガイドさんと運転手さんへのお礼に全員で歌を歌うなど、随所に相手を意識した様子が見られた2日間でした。帰りの電車内は、騒いで迷惑をかけることもなく、疲れているのに学習のまとめをしている姿もありました。このような相手を意識した言動、場に応じた言動は



子どもたち自身の努力はもちろんですが、最高学年という立場が子どもたちをずいぶん成長させてくれたように思います。6年生の姿を5年生から1年生の子どもたちがよく見えています。「自分たちもいつか…」というあこがれの対象となり、伝統として受け継がれていくことでしょう。

＜姉妹学級による読み聞かせ活動＞

- 「どうやったら喜んで聞いてくれるだろう」
- 「どう読んだら分かりやすくなるだろう」
- 「笑顔で聞いてくれるにはどのように読もうかな」

姉妹学年になっている1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生がそれぞれ組んで、読み聞かせ活動をしました。読む方も聞いている方も、子どもたちの表情から真剣さや楽しさがこちらに伝わってきます。こうした活動は、話の面白さや読書の面白さを知ることだけでなく、相手のことを大切に思うという気持ちが育っていくように思います。11月5日から、人権教育月間が始まります。来月は本格的に人権について学ぶ月です。普段から大切にしている相手を感じる心、今後更に磨きをかけていきたいと思っています。



＜まもなく音楽会 10/26＞

前回のお便りでも触れましたが、本校では音楽会を、「保護者や地域の方々との協力のもとに創り上げる、壮大な『授業』」と位置づけています。子どもたちも職員も一緒になって追究し積み上げたもの、そこに「学び」が生まれます。単なる発表会ではなく、みんなで創り上げる「演奏会」にしたいと考えています。これらすべてがそろって「芸術」となっていくように思います。

—— 音楽会を絵画に例えると… ——

ステージでの演奏	→	画用紙やキャンバスに描かれた絵（作品）
演奏後の心のこもった拍手	→	絵を飾る額
演奏前と後の移動中の静寂	→	額に入った絵を展示する会場（美術館、博物館）

演奏する側だけでなく、会場の私たちが一緒になって創り上げていきたいと思っています。美術館で大騒ぎする様子は見られません。静寂も芸術の一部を担っているのだと思います。「演奏」「拍手」「静寂」三拍子そろうことによって、子どもたちのステージはさらにすばらしくなり、「コンサート」そして、「芸術」となっていくことと思います。これも「相手意識」から生まれるものと思います。

明後日は、子どもたちの精一杯の演奏（作品）を、温かい拍手（作品を飾る額）と静寂（会場の雰囲気づくり）をもって、みんなで創り上げられたら幸いです。



気持ちの入った音楽集会



全校の前で堂々と歌う2年生